硫黄島の砂（1949）

SANDS OF IWO JIMA

メディア 映画
ジャンル 戦争
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 109分
初公開日 1952/06/19
公開情報 リパブリック＝ＮＣＣ

【解説】

海兵隊の鬼軍曹を描いた作品としては後にイーストウッドの「ハートブレイク・リッジ／勝利の戦場」があり、Ｓ・フラーの「最前線物語」（こちらは陸軍だが）も鬼軍曹ものとして出色の出来だった。この、Ａ・ドワン監督作は、それらのオリジナルとなった戦記ものの傑作の一本だ。海兵隊ライフル分隊、ダン伍長の独白で進展する物語は、極めてドキュメント的な部分と、ウェイン映画らしい軍隊を家族にみたてたホームドラマ的要素が無理なく融合して、ほとんどを実録（ストック）フィルムとのつぎはぎで作っていながら、そのアクション場面の迫力たるや大したものだ。

ガダルカナルでの勝利の後、一旦、後方で再訓練を受けた分隊はニュージーランドで補充兵を持つ。そこで加わったのが、ウェイン扮するストライカー軍曹が父と慕うコンウェイ大佐の息子ピート一等兵。父に似た根っからの軍人の軍曹を毛嫌いする大学出の彼も、次第に軍曹の人間味と勇敢さに触れ軟化していくーーという展開は定石通りだが、丁寧な演出でシラけさせず、喧嘩ばかりしているフィラデルフィア（兄弟愛の町）出身の双子や、激戦中にコーヒーで一息つく間に戦友を失う兵隊のエピソードなど細部の押さえも効いている。離婚して息子を妻に取り上げられた軍曹が休暇のたびに酒で大暴れするのを、部下たちがいやいやＭＰから守る場面も微笑ましく、だからこそ、クライマックスの硫黄島上陸戦に至って、いよいよ敵＝日本軍の姿があらわになっても引き込まれてみつめ、摺鉢山に星条旗の翻るさま（報道写真で有名）を、むしろ満足の気持ちで眺め入るのだ。

【クレジット】

監督	アラン・ドワン	Allan Dwan
製作	エドマンド・グレンジャー	Edmund Grainger
原作	ハリー・ブラウン	Harry Brown
脚本	ハリー・ブラウン	Harry Brown
	ジェームズ・エドワード・グラント	James Edward Grant
撮影	レジー・ラニング	Reggie Lanning
音楽	ヴィクター・ヤング	Victor Young
出演	ジョン・ウェイン	John Wayne
	ジョン・エイガー	John Agar
	アデル・マーラ	Adele Mara
	フォレスト・タッカー	Forrest Tucker
	ジュリー・ビショップ	Julie Bishop
	ジェームズ・ブラウン	James Brown
	アーサー・フランツ	Arthur Franz
	ウォーリー・カッセル	Wally Cassell
	リチャード・ウェッブ	Richard Webb

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

リチャード・ジャッケル	Richard Jaeckel
ジョン・マクガイア	John McGuire
マーティン・ミルナー	Martin Milner
ウィリアム・セルフ	William Self

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.